

学 習 用

東京大学

東日本大震災・
原子力災害 伝承館



東日本大震災・原子力災害伝承館

事前学習テキスト

Ver.1.0

・・・はじめに・・・

質 問 で す

Q1. 福島県のこと、知っていますか？

例) 位置、歴史や文化
名所・観光、産業・名産品 など



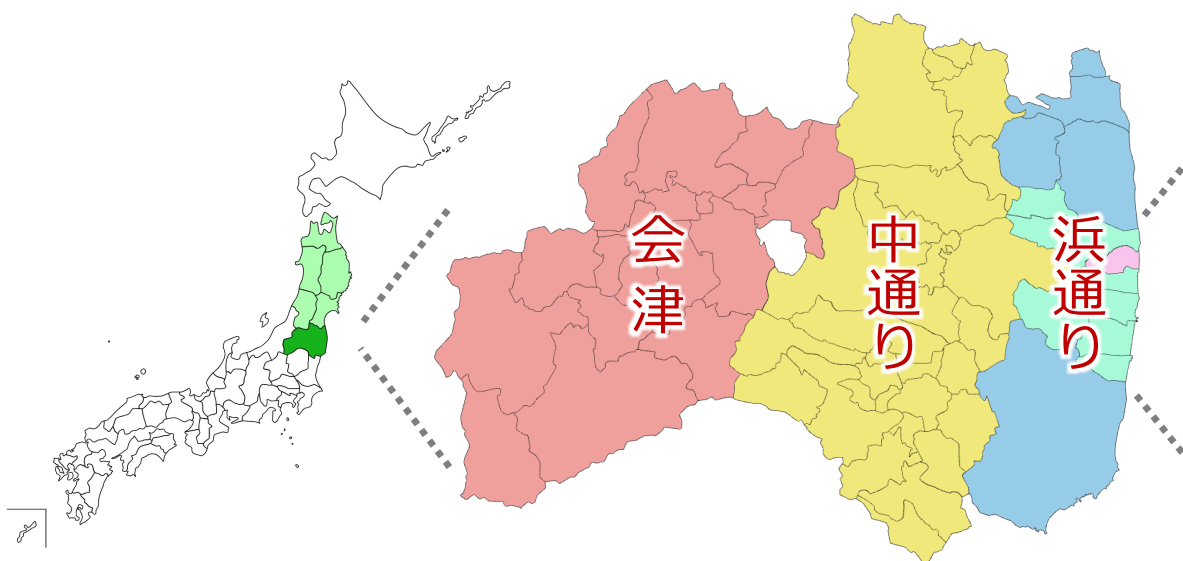
Q2. 東日本大震災のこと、知っていますか？

例) いつ？（何歳の時）
震源地、地震の大きさ
どんな被害？ など



福島県は・・・

東北地方の最南端に位置
全国で3番目の面積
(面積：13,784Km²)



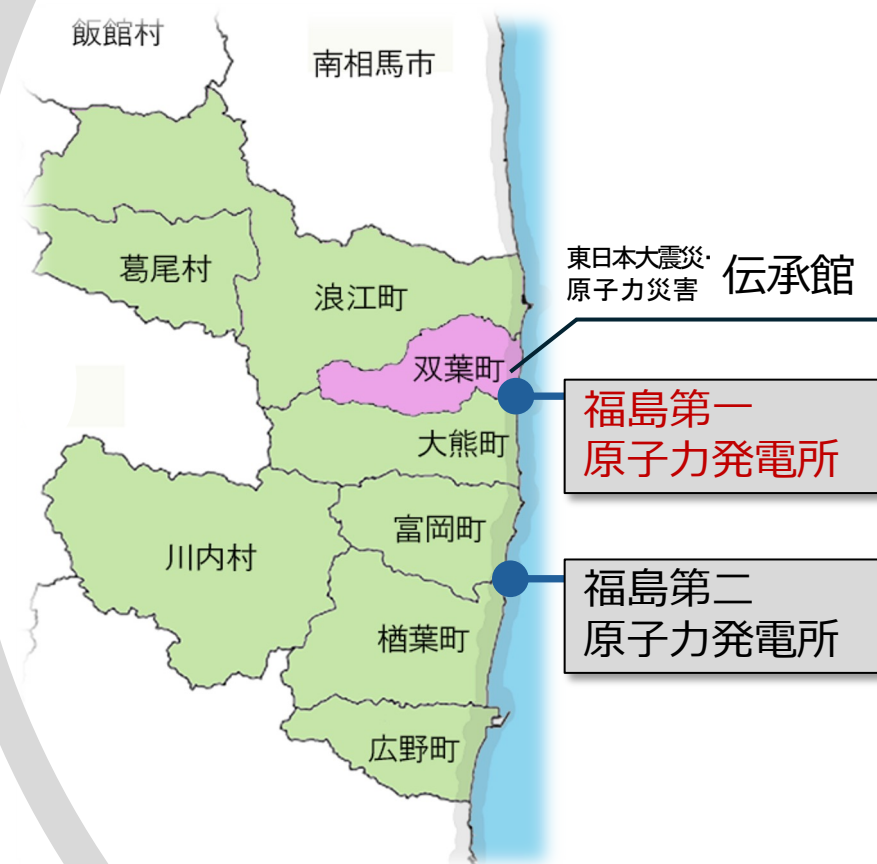
会津

中通り

浜通り

大きく3つの地方に区分
歴史・気候・交通などが異なり
それぞれ特徴を活かし発展

原子力発電所は
浜通りに立地



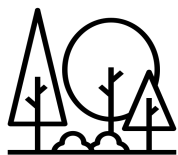
東日本大震災・
原子力災害 伝承館

福島第一
原子力発電所

福島第二
原子力発電所

2つの原子力発電所とも
東京電力の発電所です

福島県の魅力



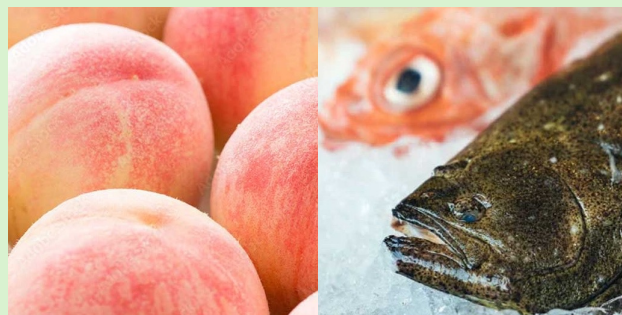
自然の宝庫

雄大な山々、美しく神秘的な湖沼、太平洋に広がる青い海など、美しい風景と共に四季折々の自然が楽しめます。



美食の宝庫

自然豊かな環境で育ったお米、野菜、果物、新鮮な「常磐^{じょうばん}もの」と呼ばれる海産物が自慢です。ラーメンなども全国の方に親しまれています。



歴史・伝統の宝庫

歴史的な名所や古くから続く文化が数多く存在します。伝統的なお祭りや、工芸品などが大切に受け継がれてきました。





伝承館での学習の目的

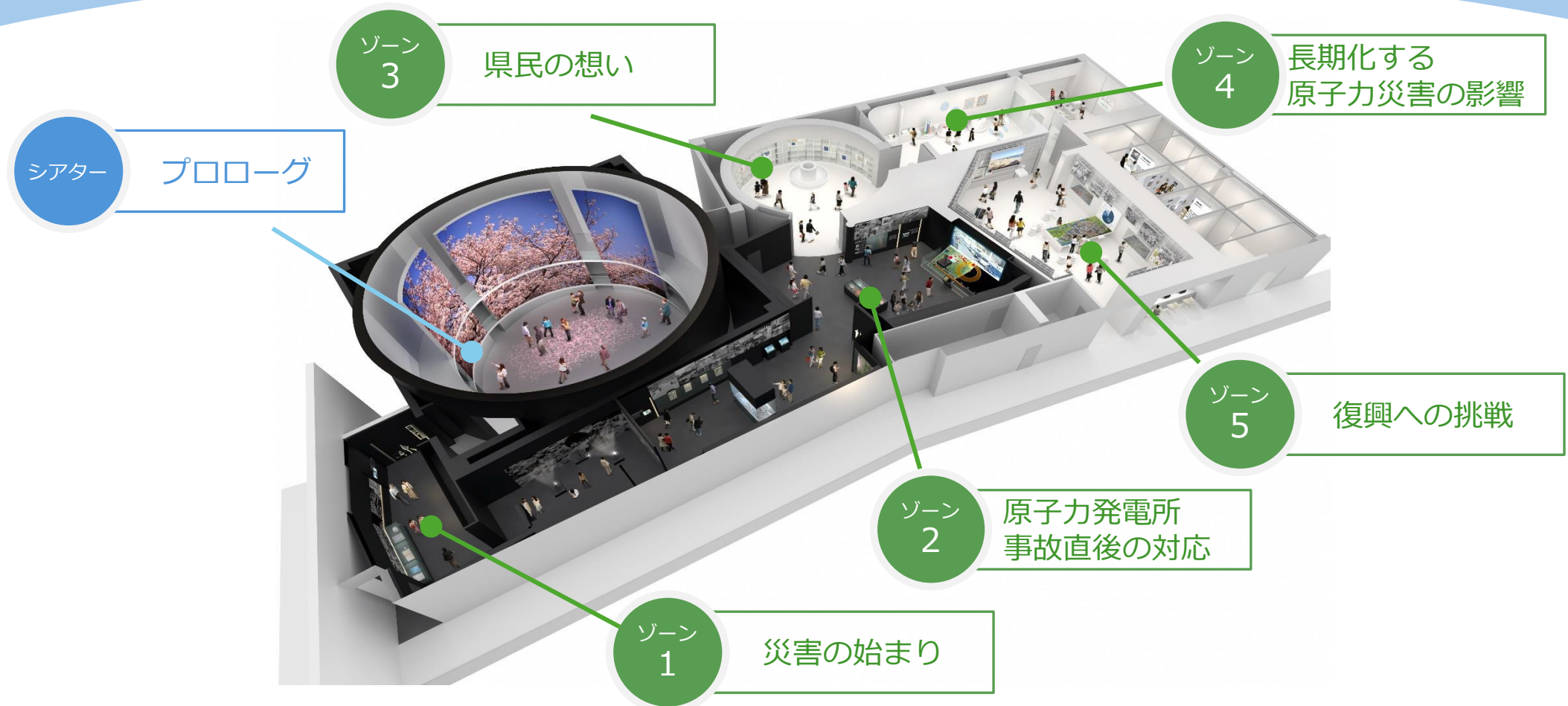
福島県は、2011年3月11日の東日本大震災で、地震・津波・原子力災害という世界でも例のない複合災害を経験しました。

現在も様々な分野で課題に取り組みながら、復興に向けて急速に変化を続けています。

東日本大震災・原子力災害伝承館（以下 伝承館）での学習を通して、福島で起きた震災と原子力災害の影響や、復興について知り、「他人事」ではなく「自分事」として捉え、災害への備えや社会について考える力を身に付けましょう。



伝承館の展示エリア



1. 災害の始まり

事故前の暮らし ～ 地震・津波・原子力発電所事故の発生を学べます

事故前の暮らし

原子力発電所
建設前



農業中心



炭鉱業の衰退



過疎化

高度成長期



首都圏の
エネルギー需要増



原子力発電所 建設

原子力発電所
建設後



仕事の増化



生活水準の向上



人口の増加

原子力発電所が建設・稼働により地域も発展しました。



原子力発電所と地域の人たちとのつながりを考えてみよう！

災害の始まり

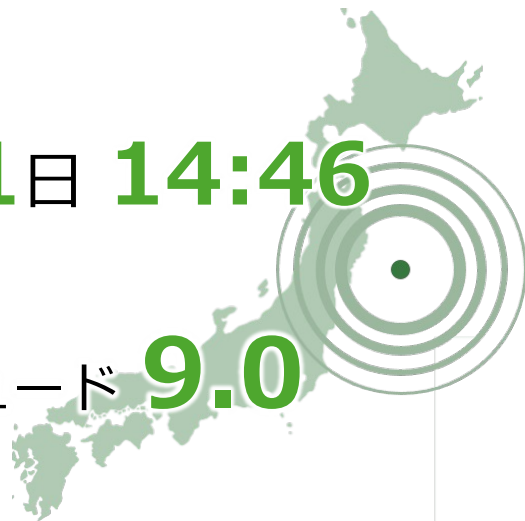
東日本大震災について

東北太平洋沖地震

2011年3月11日 14:46

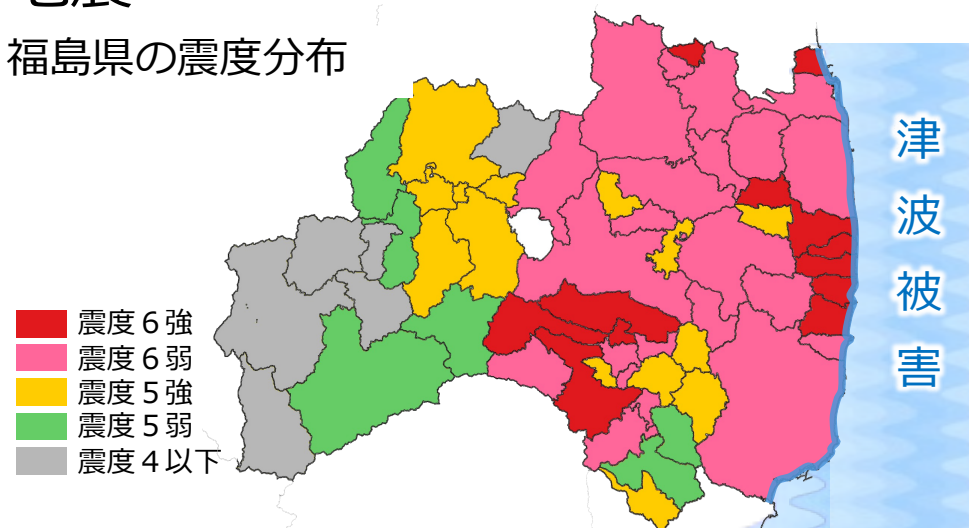
震源地：三陸沖

規模：マグニチュード 9.0



地震

福島県の震度分布



津波

津波の最大高さ

南相馬市	9.3m以上
浪江町	15.5m
双葉町	16.5m
大熊町	約13m
富岡町	21.1m
楢葉町	10.5m

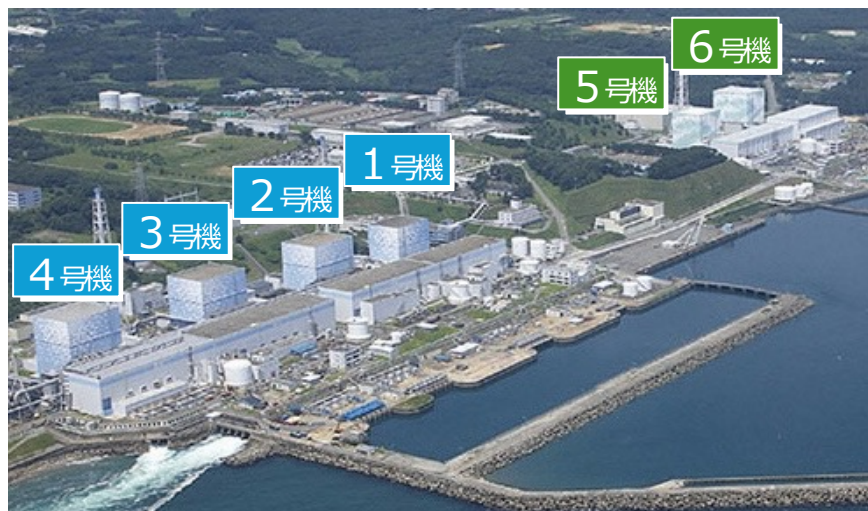
(各自治体発表の数値)



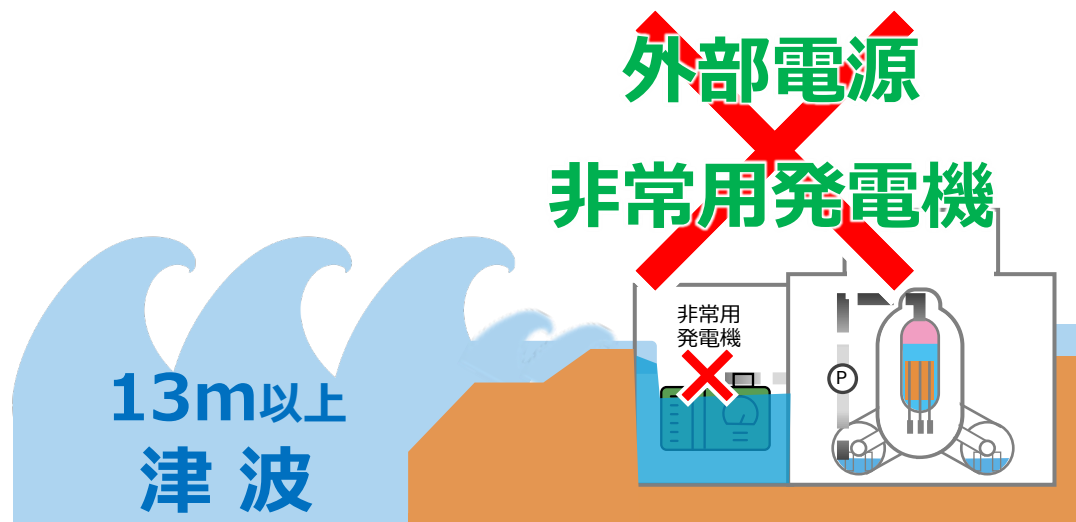
地震・津波の映像などで、その威力や被害の大きさを知ろう

災害の始まり

東京電力 福島第一原子力発電所の事故



(写真：福島県「平成22年度原子力行政のあらまし」より引用)



4号機	3号機	2号機	1号機
			
水素爆発	水素爆発		水素爆発
	ろしんようゆう 炉心溶融	ろしんようゆう 炉心溶融	ろしんようゆう 炉心溶融

(写真：東京電力ホールディングス ホームページより引用)

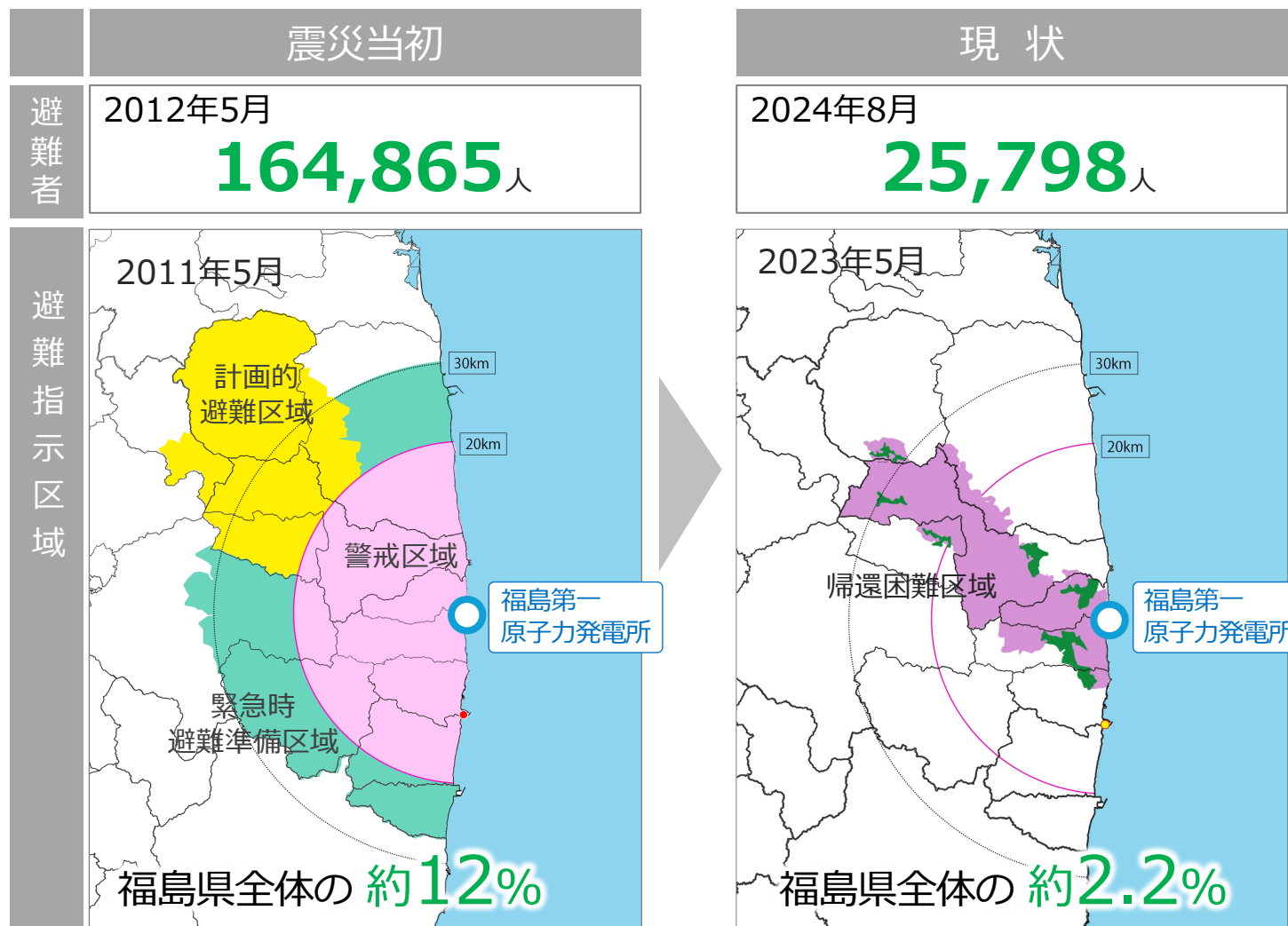


事故直後の原子力発電所（模型）

外部電源・非常用発電とも停止し、原子炉を冷却することができなくなり、
水素爆発や炉心溶融（メルトダウン）が発生。

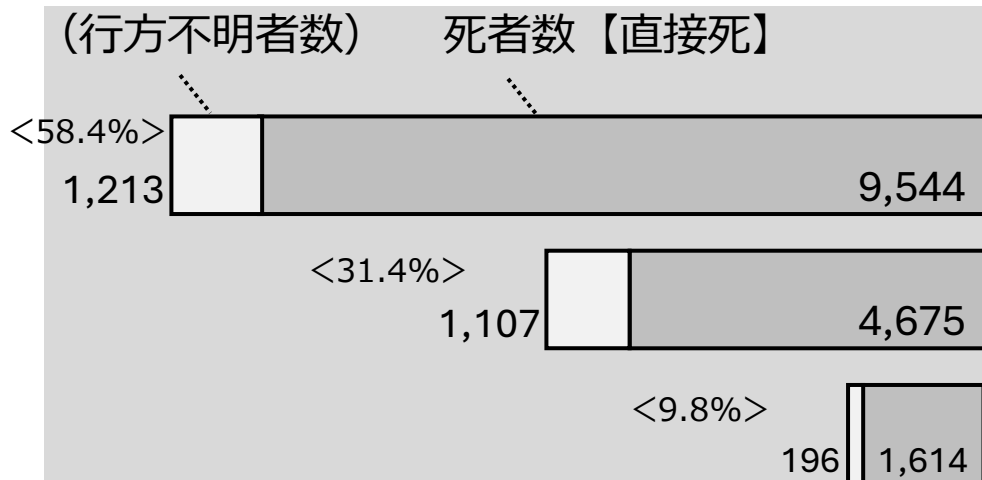
世界でも例のない複合災害（地震・津波・原子力災害）

－ 当たり前の日常が失われた“ふくしま”－



死者【直接死】・行方不明者

直接死：地震や津波などの直接的被害で亡くなった方

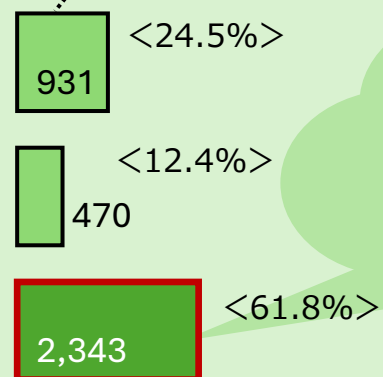


警察庁「平成23年東北地方太平洋沖地震の警察措置と被害状況（2024年3月8日）」

震災関連死

震災関連死：避難生活による体調の悪化などで亡くなった方

死者数【震災関連死】



■ 福島県
長期化する避難生活・環境の激変などから
震災関連死が多い

復興庁（2023年3月31日時点）

直接死・間接死などの人数は、データの引用時期の違いにより、
伝承館での表示人数と当資料の人数が異なる場合があります



震災関連死を防ぐためにはどうしたら良いでしょう？

2. 原子力発電所 事故直後の対応

原子力発電所の事故発生直後の状況や、その特殊性を
さまざまな資料や証言映像をもとに振り返ります

経験したことのない原子力発電所事故

避難の開始

避難所を転々と

先の見えない日々

国内外の反応
と支援

国内外の報道

様々な支援と方法

家族や地域生活
との別れ・変化

原発事故からの1週間

生活が一瞬で変わり、次々と判断を迫られた日々

避難を強いられた人々

長期に渡る避難と見知らぬ土地での生活

滞った物流

食料・日用品・ガソリンなどの入手が困難に



原発事故直後、地域・住民はどのような状況になったか調べてみよう。

3. 県民の想い

災害時に感じた不安・恐れ

県民のさまざまな想いについて、証言映像と
思い出の品などの実物展示により伝えます

突然奪われた平穏な生活

災害時に感じた
不安・恐れ

地震発生時の様子

津波発生時の様子

学校生活の
思い出・変化

小学生の震災

高校生の震災

家族や地域生活
との別れ・変化

住民の生活の変化

日常との別れ

生活基盤の変化
・将来への想い

生活の不安

家畜の安楽死

再興への想い



人々の想いを知り、自分に置き替えてみよう。



避難所で起きたこと



避難生活で起きたこと



転校で起きたこと

▶ プライバシーの欠如(不十分)

- ・ 女性や子どもへの配慮不足



授乳スペース



更衣室



キッズスペース

- ・ 高齢者や障がい者への不十分な対応

▶ 情報格差の発生

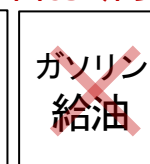
- ・ 避難所のルールや支援情報を理解できない高齢者や外国人



▶ 避難者への偏見や差別

- ・ 放射能や放射性物質に関する誤った認識からの偏見・差別

福島からの避難者お断り



▶ 生活環境の大きな変化

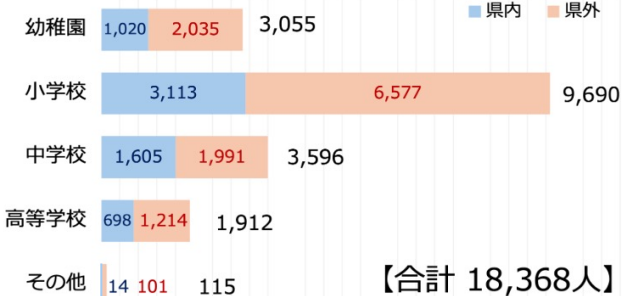
- ・ コミュニティの分断
- ・ 望まない形での家族分離
- ・ 心の健康が損なわれ、うつ病やストレス障害が増加

▶ 多数の児童・生徒が県内外に転校

- ・ 不安を抱えながらも歩み出す子どもたち
- ・ 「避難いじめ」や環境になじめず「不登校」も増加

● 福島県の 転校・転園者数 (人)

2011年9月1日



データ引用：文部科学省「東日本大震災により被災した幼児児童生徒の学校における受入れ状況について」



助け合う社会・みんなが安心して暮らせる社会 にするためには？

4. 長期化する 原子力災害の影響

長期化した原子力災害の影響について
資料や専門家による解説映像で学べます

除染作業

拡散した放射性物質による健康や生活環境への影響をすみやかに低減させるために除染作業を実施

除染作業
(例)



仮置き



除染で出た土などは、黒いフレコンバッグに入れ各地域で仮置き後、中間貯蔵施設に搬入。

フレコンバッグ：
フレキシブルコンテナバッグの略称

中間貯蔵

受入・分別・焼却作業などを行い、
土壌貯蔵施設・廃棄物貯蔵施設で保管。

中間貯蔵施設



敷地面積：約1,600ha

搬入対象：約1,400万 m^3

—最終処分は2045年3月までに福島県外で最終処分—



除去土壌などの最終処分はどうしたらよいでしょう？

長期化する 原子力災害の影響

空間放射線量の推移

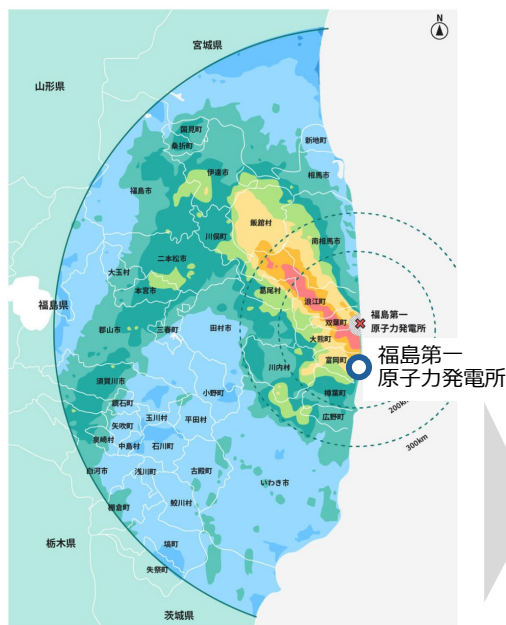
単位：μSV/h
(マイクロシーベルト/時間)
シーベルトは人が受ける放射線の単位

福島県の空間放射線量は

自然減

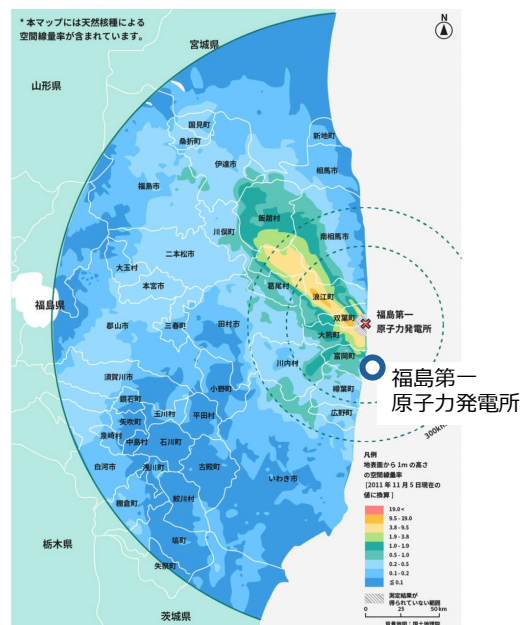
除染

により大幅に低下



文部科学省発表 2011年12月16日

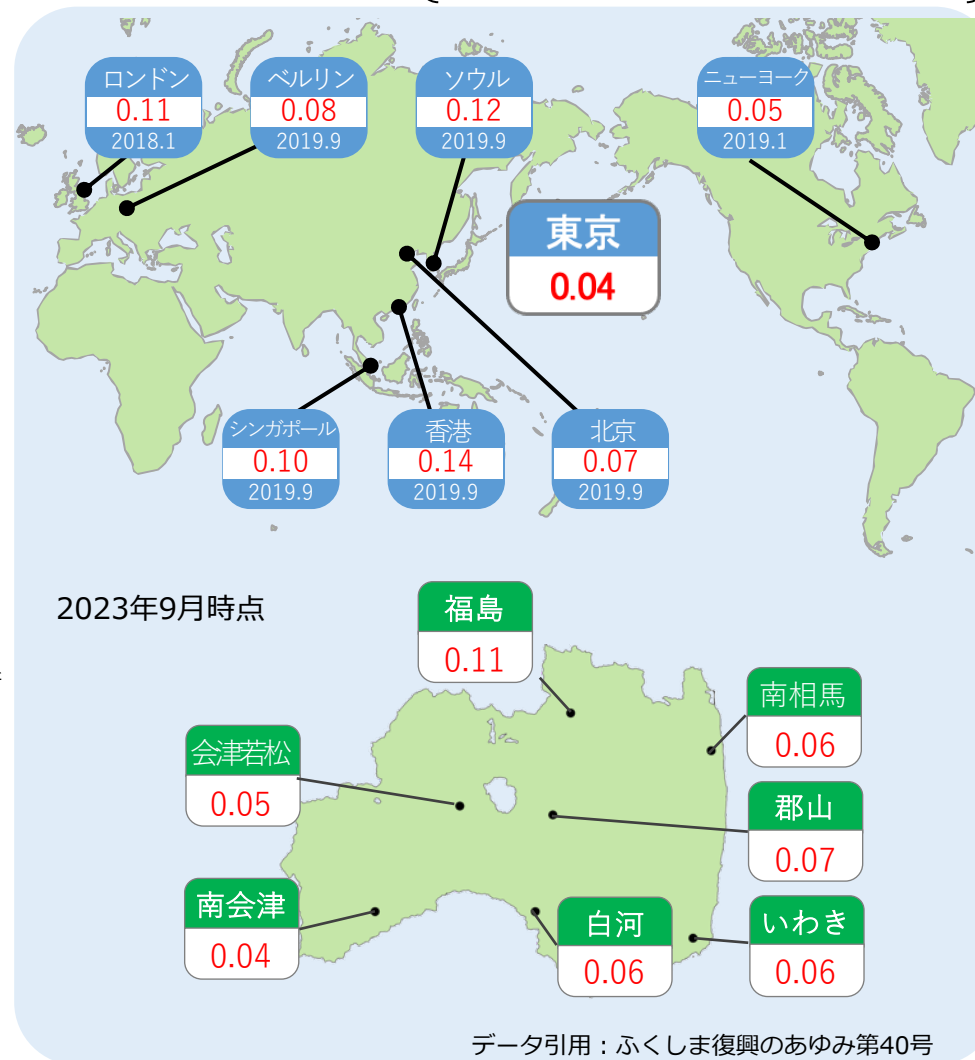
2011年12月



原子力規制委員会発表 2019年9月

2019年9月

出典：復興庁ポータルサイト「Fukushima Updates」



避難指示が解除された地域の空間放射線量は、全国や世界の主要地域と比べても同レベルの数値になっています。

長期化する 原子力災害の影響

農林水産業の取り組み

食品中の放射線物質に関する基準



単位：Bq/kg
(ベクレル/キログラム)
ベクレルは物質が発する放射線の単位

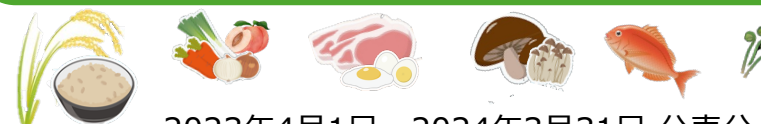
区分	日本	EU	アメリカ
一般食品	100	1,250	1,200
飲料水	10	1,000	1,200
牛乳・乳製品	50	1,000	1,200

－ 厳しい上限値で厳密な検査を実施 －



福島県産品 一般食品

モニタリング検査 実施状況



2023年4月1日～2024年3月31日 公表分（件）

種別	検査 件数	基準値 超過件数
玄米	424	0
野菜・果物	1,873	0
畜産物	1,716	0
野生山菜・きのこ	401	0
栽培山菜・きのこ	552	0
海産魚介類	3,341	0
内水面養殖魚	25	0
河川・湖沼の魚類	153	0

※出荷・販売用の品目を対象とした検査



風評被害はなぜおきるのでしょうか。また防ぐためには？

5. 復興への挑戦

復興のあゆみや廃炉、新たな産業など、
困難を乗り越え復興に挑戦する福島県の姿を紹介します

新たな産業の取り組み 原発事故で失われた産業の回復

〔 6つの分野で世界に誇る
先端技術の集積地へ 〕



福島イノベーション・コースト構想



廃炉

国内の英知を結集した技術開発



ロボット・ドローン

福島ロボットテストフィールドを
中核にロボット産業を集積



エネルギー・ 環境・リサイクル

先進的な再生可能エネルギー・
リサイクル技術の確立へ



農林水産業

ICTやロボット技術等を活用した
農林水産業の再生



医療関連

技術開発支援を通じ
企業の販路を開拓



航空宇宙

"空飛ぶクルマ"の実証や
関連企業を誘致



復興に向けたさまざまな取り組みを知ろう

…事前学習を通して…

ふり返し：事前学習をとおして

知ったこと、感じたこと、
考えたこと、疑問に思ったことなど



まとめ：東日本大震災・原子力災害伝承館で学びたいこと

伝承館で学びたいことを3つあげてみましょう



東日本大震災・ 原子力災害 伝承館

アンケートにご協力ください

https://www.fipo.or.jp/lore_prestudy/distribution/enquete/?t=s&k=84154d6584211d499d61301b8bd0b4c2bf7b1cd56fbdedcf2cca3312f6563abb



発行：福島県 企画調整部文化スポーツ局 生涯学習課

お問合せ：公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構
東日本大震災・原子力災害伝承館

電話 0240-23-4402 FAX 0240-23-4403

電子メール archive@fipo.or.jp

HP <https://www.fipo.or.jp/lore/>

